

まちづくりの地域情報紙

e-NET 6500

We Are The One
みんなでひとつ

ミュージカル

惟喬親王伝説

公演日：1月31日(土) 14:00開演
2月 1日(日) 14:00開演



東近江創作ミュージカル 2025
『惟喬親王伝説』公開稽古 11/29
関連記事 11ページ

情報紙 第124号 2026年 1月 1日

編集・発行：永源寺地区まちづくり協議会 東近江市山上町 1316 番地 永源寺コミュニティセンター内
IP : 050-5802-9336 <http://members.e-omi.ne.jp/e-net6500/> E-mail : e-net6500@e-omi.ne.jp

地域のみんなで 子育て応援フェスタ

10月26日、永源寺コミュニティセンターで、今年初めての企画、「子育て応援フェスタ in 永源寺」が開催されました。

この日は、親子で楽しんでもらおうと、木育コーナー、絵本コーナー、食育・健康コーナー、アクセサリーや小物作りができるコーナーなどを設け、参加者は思い思いに楽しみました。

広いホールでは、木のぬくもりを感じてもらおうと、木で組み立てたジャングルジム「るんだー」や「木のたまごプール」、立体パズルなど、会場いっぱいに並べられた木のおもちゃで夢中になって遊んでいました。

健康推進員によるカルシウムおやつの試食や、保健師による骨密度測定、かわいいアクセサリーブル等盛りだくさんのコーナーに33組110人の親子は笑顔いっぱい楽しい一日を過ごされました。



木の温もりを感じよう！木育コーナーは大人気



女の子に人気のアクセサリーブル



食育・健康のコーナー

◇あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。
◇昨年は、「EXPO2025大阪・関西万博」や「わたSHIGA輝く国スポーツ」が、後半は大人気で予約チケットも取れないほどになりました。私も家族で2回行き、もっともっと見たいパビリオンがある中、最後は大屋根リングの上空にあがる花火を見ながら帰路につき、十分に満喫させていただきました。また、国・ス・・障・ス・・博・は、雨模様の天気の日もありましたが、たくさんの方のサポートの中で開催され、びわこ国体以来の（44年ぶり2度目）男女総合優勝（天皇杯獲得）、女子総合優勝（皇后杯獲得）と輝かしい成績でした。◇今年の干支は、「丙午（ひのえうま）」ですが、馬は力強く駆け抜けする動物であることから、「前進」「勝負」「情熱」を象徴するといわれています。「勢い」とエネルギーに満ちた活動的な年として挑戦や飛躍の年となるよう努めたいと思います。
◇昨秋、琵琶湖で成長した「ワマス」が産卵のため愛知川の支流に遡上したのを初めて見ました。万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」のように、我々がどのように今の自然を守り、未来に繋げるかが大切ですね。（S）

編・集・後・記



まちの話題

永源寺地域が登場する本・雑誌

永源寺図書館提供

『近江の滝』
水田有夏志／著 サンライズ出版

小学校の子どもたちの図書館見学で、「しきろ」って何ですかとの質問がありました。「しきろ」は図書館にある和室の名前で、愛知川の支流、松尾谷にある「識蘆の滝」がその由来です。中ほどで折り返す上下二段の段瀑で、臨済宗永源寺とも所縁のある滝です。この本には、県内46カ所の滝にまつわる伝説や伝承が紹介されていて和南町にある「渋川七滝」も紹介されています。



『シェルパ斎藤の山小屋 24 時間滞在記』
斎藤 政喜／著 山と溪谷社

バックパッカーとして知られた著者が、全国各地の山小屋に赴き、主人や小屋番たちの話に耳を傾けた滞在記。ひとつひとつに、味わいのある山小屋の間取り図が添えられています。鈴鹿山系からは、1泊2食付き4,000円という破格の値段で泊まれ美味しい料理が味わえる御在所岳の山小屋「日向小屋」と、同じく御在所岳の「藤内小屋」が紹介されています。（住所は三重県ですが…）



2026年 1月31日(土) 14:00 開演 2月1日(日) 14:00 開演

舞台は奥永源寺

「木に宿る魂、人に宿る誇り。」

平安時代初期、今の東近江市奥永源寺・小椋谷に、後に世に木地師の祖と呼ばれる惟喬親王様がひっそりと住まわっていました。ある日、旧友の歌人在原業平が親王様を訪ねて来て二人は懐かしく楽しく語らいますが、やがて時の権力者の藤原良房の野望によって都を追われた経緯も思い出されるのでした。しかし惟喬は、美しい自然と対話しながら物作りに励む里人達との生活を愛しみ、失意の業平に今

の生き方を語りかけます。

このミュージカルは、惟喬親王の伝承に基づき、生き方や誇りを持つこと、そして現代にも通じる自然環境への意識を問いかける物語です。

1月31日(土) 2月1日(日) 14:00 開演

■チケット料金 一般 2000円 18歳以下 1000円

※当日券それぞれ500円増し



八日市文化芸術会館
<https://p-ticket.jp/yokaichi-bungei>



五王製菓
だんごや_永源寺

090-2190-8235

東近江市永源寺相谷町

大本山永源寺有料駐車場内
だんご購入だけのお客様は駐車場無料です

1本 50円

定休日 たまに火・水曜日
営業時間 10:30~17:30
(本日分売り切れまで)



永源寺中学校で地域学習講座
大本山永源寺の歴史を学ぶ



永源寺の魅力や今後のまちづくりに興味関心を持ってもらおうと、地区の中学生を対象に、学校とタイアップした地域学習講座を10月24日に開催しました。講師に大本山永源寺の宗務総長横山玄秀氏を招き、禪宗の初祖と成立、寂室元光禅師の生涯や永源寺の歴史、地域とのつながりをわかりやすくお話いただきました。生徒たちは熱心に書き留め、「初めて永源寺の歴史を深く知り興味深く、学びになる講座だった。もっと知りたい。昔から地域の方々に守られてきたことがわかり感動した。これからも永源寺の歴史を繋いでいきたい」と学習の成果を発表してくれました。

東近江市のいいとこ発見 第3弾
ロマン溢れる蒲生の歴史を満喫



10月29日、「東近江市のいいとこ発見事業」で、歴史とロマンのまち蒲生野を探訪しました。

東近江市観光ボランティアガイドがもう支部長大塚活美さんの案内で、石塔寺、木村古墳群、梵釈寺、ガリ版伝承館、山部神社、赤人寺などを訪れました。石塔寺の三重の塔の由来、玉垣と山上の関係、ガリ版を活用した作品やエジソンからの手紙など、大塚さんの一歩踏み込んだ説明で、今まで知らなかった蒲生を満喫しました。大塚さんの自慢は、蒲生には近江鉄道の駅が4駅もあるとのことでした。秋の一日、バスで近場を訪ねて新しい歴史の発見ができました。

小中学生が夢や思いを堂々と発表
青少年育成大会



永源寺青少年育成大会

西田周治氏による防災講演

「地域で育てよう心豊かなもみじっこ」をスローガンに青少年育成大会が11月1日永源寺コミュニティセンターで開かれ、青少年の育成に関わる団体や地域住民の方など152人が参加しました。

大会では永源寺地区の小・中学生7人が日常の中で考えていることや将来の夢、こんな世の中になつてほしいなどそれぞれの思いを堂々と発表しました。続いて行われた表彰式では青少年活動に貢献された石谷町の山田英雄さんの顕彰や、あったかメッセージコンテストでは16人が表彰されました。この日、もみじ幼稚園5歳児のみなさんも元気な歌声で大会に花を添えられました。

関心高いコミュニティ防災講座
平常時の備えの重要性学ぶ



10月11日、永源寺コミュニティセンターで、コミュニティ防災講座が行われました。今回は防災士の西田周治氏が地区防災計画について講演され、市防災危機管理課から防災グッズの紹介がありました。その後、簡易ベッドと間仕切りテントの組み立て実習、八日市消防署によるもくもくハウス体験と重量物排除作業実演が行われました。

永源寺地区的皆さんの防災意識は高く、参加予定人数を超える100人以上の来場がありました。平常時の備えが、南海トラフなどの地震や豪雨によるがけ崩れ、土石流の災害に対し有効な防災であることを改めて認識する講座でした。



国民スポーツ大会
奥村壮真さん（如来）ライフル射撃 2位

障害者スポーツ大会
熊田 繁さん（上二俣）ジャベリックスロー 優勝
砲丸投げ 2位

44年ぶりに滋賀県で開催された国民スポーツ大会・障害者スポーツ大会に永源寺地区からも出場され、優秀な成績を収められました。国スポのライフル射撃では、如来の奥村壮真さんが2位に、また障スポ陸上競技では上二俣町の熊田繁さんが、ジャベリックスローで優勝、砲丸投げで2位に入賞されました。

奥村壮真さんにお話を聞きしました。奥村さんは、現在水口高校3年生で、少年男子AR（エアーライフル）60WJに出場し2位になりました。今年の県大会で1位、近畿大会でも1位となり、さらに9月埼玉県で行われたジュニアオリンピックカップ（JOC）で優勝し成績が認められ、国スポ代表選手に選ばれ出場されました。好成績を上げた経験が国スポのときは気が楽で、あまり緊張しなかったということでした。

進学の学校体験で、ライフルに興味を持った

たのが高校を選ぶきっかけとなり、クラブ活動は練習が毎日16時～19時でしたが、楽しかったので高校の3年間はライフル漬けのことでした。大阪の能勢ライフル射撃場で、月に1回合宿があり、立射で行うため、腰が痛くなることもあったようです。2年生になって大会にも出るようになり、だんだん上手になってきて、3年生になってからは全国大会に出場できるようになったことです。専門学校に進学される予定ですが、将来、時間に余裕が出来たら、個人で実射（SB）をやりたいと抱負を語っていただきました。



東近江市議会議員選挙
投票率は過去最低の45.08%
西村和恭氏3期目当選 議長就任

10月19日に東近江市議会議員選挙が執行され、26人が立候補されました。昨年度、議員定数条例が改正されたことにより、今回の選挙から議員定数が3人減り、22人となりました。

選挙当日の天候は悪くはありませんでしたが、投票率は45.08%と前回（令和3年48.08%）より3.0%低くなりました。永源寺地区だけを見ても、56.39%であり、前回（令和3年60.16%）より約4%低下しました。

そのような状況のなかで、市原野町の西村和恭氏が3期目の当選をされました。

また、11月4日に開かれた東近江市議会臨時会に

おいて、西村議員が第22代議長に就任されました。誠におめでとうございます。今後、益々のご活躍を期待いたします。



永源寺みらい会議

誰もが「ふるさと」と感じられるまちづくりに向けて

移住者から話題提供

11月13日、永源寺コミュニティセンターで、「永源寺みらい会議」が開催され、約60人が参加されました。

永源寺地区内で地域活動に関する21団体が一堂に集まり、まちづくりについて情報を共有し、地域の課題解決に活かすことを目的に毎年開催されています。今年度は、誰もが永源寺を「ふるさと」と感じ、安心して暮らしつづけるためには何が必要か?を



永源寺に移住されてきた3人の方からの話題提供

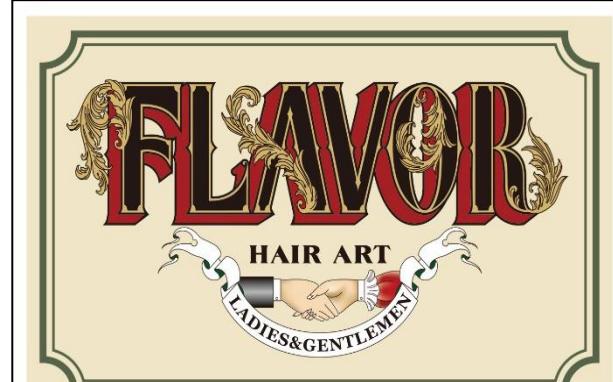


話題提供のあと、参加者で話し合い

特に今回は永源寺地区に移住して来られた方たちの視点をとおして、地域の魅力や実際に暮らすことをお聞きし、まちづくりに活動することになり、当日の会議に登壇し、話題提供をされました。は、移住して来られた3人の方がそれぞれ。決め手は、子育てに良い環境だと思った。下見の時に感じた地域の方の温かさや安心感など。住んでみて良かったことや魅力は、ご近所どうしのつながりや声かけ、都会では出来ない自然体験などでした。

心配ことは、自分が高齢になつた時の移動手段をはじめ、人口減少や高齢化に伴う地域や自治会事業への影響などでした。また、現在の核家族の現状や多様な働き方であつても、地域の行事に参加しやすい工夫があると嬉しいといった声もありました。

最後に、各グループから発表が3の方々から話題提供を行いました。ただいた後、参加者は6グループに分かれ、感想や問題点、課題解決のための取り組みについて話し合いました。最後に、各グループから発表があり、必要としている人に伝わる空き家情報を充実すること。若者がもつと地域に関心が持てるようまちづくりを考案する。遠慮しきすぎず、気軽に「助けて」と言える地域づくりが必要である。また、人口減少をマイナスと捉えるだけではなく、やり方を見直し、出来ることをみんなで楽しむ方向を探索する事も大事ではないか。等々、多くの意見が出され、これらの課題を解決するためには、やはりみんなで話し合いを続ける事が重要であると改めて感じさせた会議でした。



電話：0748-56-1386

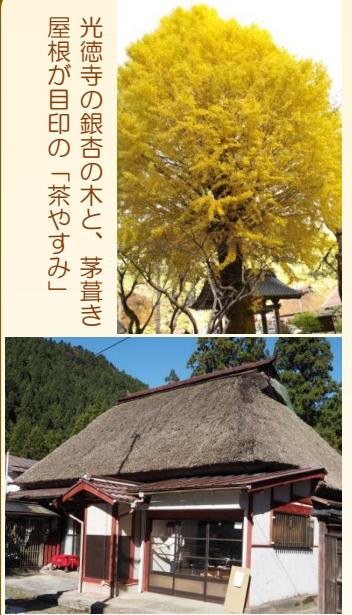
子供からお年寄りまでみんなが気軽に集まれるアットホームな美容室







まちの話題



光徳寺の銀杏の木と、茅葺き屋根が目印の「茶やすみ」

茅葺き屋根が目印の古民家を再生 里山文化体験施設「茶やすみ」始動

政所町で茅葺き屋根が目印の古民家を改修して、里山文化施設「茶やすみ」を開くとの情報を得て、覗いてみました。情報てくれたのは、茶縁結びを推奨する山形蓮さん。茶やすみで開くイベントの企画も彼女の考案で、立ち寄った11月1日と16日は、ちょうど古民家前色になった頃で、錦秋の里山を楽しめる時期でもありました。

1日は、里山茶会を開催。煎茶、平番茶、抹茶、古樹番茶をペーリングされたお菓子とともに味わう企画。守山市から訪れたというグループは、山形さんと会話を弾ませながら喫茶を楽しんでおられました。また、16日は宇治市で売茶中村を営む茶師を招き、手揉み製茶ワーキシヨップを開催。中村さんは、「新茶の時期に茶農家から

仕入れた茶葉を冷凍保存し、製茶する分だけを解凍して製茶することで、いつでも揉みたてのお茶が味わうことができる」といいます。焙りながら手揉みすること約5時間。参加者は交替で手揉みを体験し、自らが製茶に関わった経験をされていました。

「茶やすみは、茶を通じた出会いの場であり、地元の方々が集つ茶の間としてこれからも育てていきたい。おくどさんを使って地元の方に郷土料理を作つてもらい提供していかない。定期的に出張居酒屋を開店し、地元の方の交流の場にしていきたい」など、山形さんの夢は膨らみます。



中村さんの手ほどきで手揉みする山形さんと京阪神からの参加者

木地師シンポジウム 木地職人が課題と展望語る



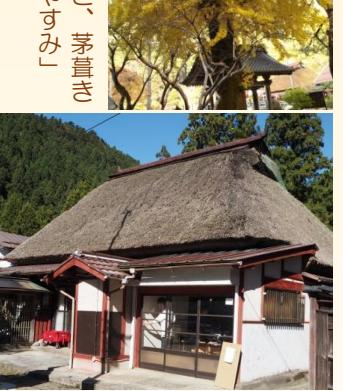
技術の伝承と展望について熱く語られたパネルディスカッション

11月8日「伝統の継承と近代化」をテーマにアピアホールで木地師シンポジウムが開催されました。

基調講演では、民俗学や伝承史を専門とされている国立歴史民俗博物館の小池純一教授が、木地師のろくろ技術により近代になって新たに生み出された「万年筆」をテーマにお話をされました。技術と文化、そして人々の暮らししが交差する興味深い講演でした。



「近代化とともに毛筆に代わって万年筆が主流。その背景には木地師のろくろ技術があったからこそ」と話す小池教授



は、全国の木地師・塗師5人が登壇し、「木地師における

伝統技術の継承とその課題」をテーマに議論されました。活動する地域も世代も異なる5人の木地師・塗師の方が日々ごどのような製品を手掛けられ、その技術をどのように受け継いできたのか、そしてこれから時代にその技術をどのように継承していくべきか、それぞれの立場から話し合われました。約150人の参加者は熱心に聞き入っておられ活発な質問が出ていました。また会場にはパネラーの方の作品がたくさん並べられており、皆さん手に取って感想をパネラーの方と懇談されていました。

地域を知ろう！まち歩き in 和南 福祉の会主催 カロムも体験



地域を知り、地元の人と触れ合う目的で永源寺福祉の会が毎年実施している『地域を知ろう』のイベントが、10月25日に行われ、今年は和南町を訪ねました。

参加者やスタッフ約40人は、多度神社や裏手にある丘陵尾根筋に築かれた和南城について地元の長老から説明を聞きました。また、ガラス工房「アズーログラススタジオ」を見学。色彩豊かなガラス工芸品を鑑賞しながら作家から手法を学び、光明寺では住職からお寺の歴史について説明を受けました。地元の方手作りの豚汁が振舞われた昼食後は、町内の子どもたちも参加してカロムを体験。玉を弾く音とともに歓声や笑い声が起り、交流の輪が広がりました。

親子で楽しみながら英語に触れる コミセン講座「すくすくジュニアキッズ」



11月15日、永源寺コミュニティセンターで、すくすくジュニアキッズ「親子で一緒に英語であそぼう！」を開催しました。講師に水上和美さんをお迎えし、3~5歳児親子7組が参加されました。水上さんは、近江八幡市で幼児から中学生対象の英語教室を開催されています。今回の「英語であそぼう！」では子どもたちが楽しみながら英語に触れるようにカラーボールやカードを使って遊びの中から自然に英語が身につくように工夫されました。親子で一緒に遊ぶ場面もあり、子どもたちも思いっきり体を動かして楽しんでいました。参加された保護者の方からは「普段、英語の歌を歌いながら遊ぶ機会がないので今回、体験できて良かったです」と話されていました。

良い夜い コンサート



11月8日、永源寺図書館で良い夜いコンサートが行われました。第一部では地域のみなさんによる発表が、第二部ではゲスト演奏が行われました。



2日目のステージは音楽づくし。アカペラ・フラダンスも。写真は八日市高校吹奏楽部の演奏とキッズダンス



道の駅内に隠されたとび太くんをさがそう。プレゼント付きゲームに来場者も多数参加



地元の方もステージを盛り上げる。スポーツクラブによる餅つきに来場者も参加。振る舞われた付きだてのお餅に舌鼓み



「感謝」のひとことに尽きます これからも地域振興の拠点で在り続けたい

開駅10周年記念事業実行委員会 会長 池田則之さん

開駅から10年間運営できたのも地域の皆さんの支え、立寄っていただいたお客様、そして行政の支援などのお陰であり、感謝の念に堪えません。

当初は、トンネルが開通したとはいえどれぐらいの人が立寄ってくれるのか正直不安でしたが、来駅者も直売所の売り上げも順調に推移しています。ただ、売上額は、物価高騰による影響もあり、ただ単に喜べる数字ではありません。道の駅としては売り場面積も駐車場も狭小で、課題も多いのが現状です。

渓流の里は、来訪者への物販や情報発信だけでなく、地区的防災、コミュニティの拠点施設でもあり、登山、釣り、キャンプなどのアウトドアの案内機能、自動運転の拠点など、道の駅の管理運営だけでなく奥永源寺地域の振興を担っていく存在であり、これからもそう在り続けていきたいと思っています。

今回の感謝祭の企画は、地域に関わる若い人たちに任せ、役員は口出し一切無用としました。感謝祭として開催する意義をしっかりと受け止めてくれたイベントであったと思っています。こういった機会を通じて若い力を結集し、これから奥永源寺地域を盛り上げていってほしいと願っています。



道の駅奥永源寺渓流の里開駅10周年記念感謝祭



友人や恩人へメッセージを添えて政所茶のティーパックを送る茶文ワークショップ(右)鈴鹿の森の自然や歴史文化に触れられる展示コーナー(左)奥永源寺地域ならではの企画



評 やイワナ・アマゴ・アユの塩焼きも大好
い。地域の方による特別弁当も
販売 マルシェのブースも大にぎわ
い。奥永源寺漁協による渓流祭。渓流すくい
や

11/1~3 三連休の3日間 感謝祭で開駅10周年を祝う

10月10日に10周年を迎えた道の駅奥永源寺渓流の里では、11月1日から3日の三連休に開駅10周年の感謝祭が行われ、約12,000人の来場客でにぎわいました。

道の駅は、旧政所中学校の校舎を活用して開駅し、ドライバーの休憩や情報発信、物販のほか、行政窓口の機能や診療所、防災機能なども兼ね備えられており、地域住民の生活を支えています。また、鈴鹿10座ビジターセンターや自動運転車両の発着場所も併設しており、観光拠点としての役割も担っています。年間利用者は35万人を超え、直売所の売り上げも年々増加傾向にあり、順調に推移しています。

1日の感謝祭セレモニーで小椋市長は、「地域住民の生活を支えるとともに、奥永源寺地域の活性化の拠点としてなくてはならない存在。さらに、磨き上げ充実した施設となるようしていきたい」と、あいさつされました。

感謝祭では、アカペラグループやフラダンスなどのステージのほか、鈴鹿の森の自然や歴史文化の展示、茶文ワークショップ、とび太くんをさがそう、渓流祭など多彩な催しが行われました。また、地域住民による餅つきも大好評で、最後は地域の人たちに感謝を込めた住民限定の抽選会で感謝祭を締めくくられました。